

# 両沼地方稲作情報 第5号

令和6年7月5日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)  
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、  
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。  
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

「両沼」+「稲作情報」で検索！

○生育ステージに応じた水管理をしましょう。

△高温・日照不足による影響が懸念されます！

## 1 気象情報（気象庁 東北地方 1か月予報（7/6～8/5））

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率70%です。降水量は、東北日本海側で多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

## ◇葉色低下と徒長の併発に注意！

高温・日照不足で推移すると、葉色の早期低下と徒長が併発し、追肥の判断が難しい場合があります（追肥の目安については前号を参照）。

判断にお困りの際は、普及所等にご相談ください。

※幼穂形成期頃の窒素不足（葉色低下）は玄米の収量・品質の低下を招きますが、窒素過多は下位節間伸長に繋がり、特に徒長気味の稲では倒伏のリスクが高まります。

## ◇登熟期の高温が予想されます！

登熟期前半（出穂後20日間程度）に高温が続くと、白未熟粒等の品質低下が懸念されます。高温が続く場合は、地域の水量を考慮し、湛水管理や飽水管理（ひたひた水状態）等で地温の上昇を抑制しましょう。

## 2 初期生育

草丈は平年よりも長く、茎数・葉齢・葉色は平年並からやや大きい傾向にあります。

表1: 水稲作柄解析試験データ(会津地域研究所7/2時点) ※移植日:5/21、栽植本数:20.8株/m<sup>2</sup>(30cm×16cm)

品種名		草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	主稈出葉(葉)	葉色(SPAD値)
コシヒカリ	本年	62.5	727	10.4	40.7
	前年	63.9	737	10.2	40.5
	平年比	107%	103%	+0.1	+0.6
ひとめぼれ	本年	59.0	788	10.3	43.1
	前年	58.8	728	10.5	42.1
	平年比	106%	109%	-0.1	+0.5
天のつぶ	本年	59.4	686	10.0	45.6
	前年	61.8	665	10.0	44.0
	平年比	103%	107%	+0.2	+1.7

### 3 水管理(中干し～幼穂形成期～穂ばらみ期(減数分裂期)～出穂期)

- ・中干しは幼穂形成期前には終了し、その後は間断灌漑とします。
- ・低温(平均気温20℃以下、最低気温17℃以下)の場合は深水管理(水深10～20cm程度、幼穂が水に隠れるように)とし、幼穂を保護します。
- ・出穂前後の10日間は特に水が必要なため、徐々に湛水管理とします。以降は間断灌漑とし、少なくとも出穂後30日まで水を切らさないようにします。

表2: 幼穂形成始期と出穂期の平年値  
(会津地域研究所より)

品種名	幼穂形成始期	出穂期
コシヒカリ	7月15日	8月5日
ひとめぼれ	7月8日	7月30日
天のつぶ	7月10日	8月1日

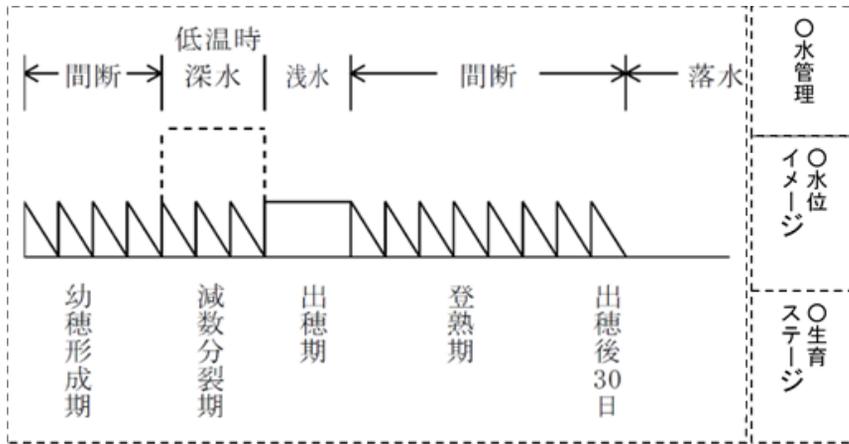


図1: 生育ステージ毎の水管理



図2: 葉いもちの病斑

### 4 病害虫対策

窒素過多で過繁茂の稲は病害虫被害が発生しやすいため注意しましょう。

#### (1) いもち病

- ・葉いもちが発生したら直ちに薬剤(散布剤)防除を行います。
- ・穂いもち防除は予防が基本です。  
→水面施用剤を使用する場合は出穂前に適期に散布します。  
→散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃い期の2回散布します。(※散布剤は周辺へのドリフトに注意)

#### (2) 斑点米カメムシ類

- ・出穂間際以降の畦畔草刈りはカメムシをほ場へ追い込むため、出穂10日前までには草刈りを終わめましょう。
- ・薬剤防除の場合、散布剤では乳熟期(出穂7～10日後)の防除を基本とし、その後発生が予想される場合は7日おきに追加防除しましょう。
- ・粒剤(水面施用剤)では穂揃期～乳熟期を目安に散布し、使用時期や止め水期間(7日)に留意しましょう。
- ・出穂の早いほ場に加害が集中しやすいため、早生品種や移植時期の早いほ場は注意しましょう。
- ・「天のつぶ」や「里山のつぶ」等、割れ粳の発生しやすい品種は加害されやすいため注意しましょう。
- ・地域全体で斑点米カメムシの密度を抑制することが重要です。



図3: 穂いもち発生ほ場



図4: 会津管内の主な斑点米カメムシ  
アカスジカスミカメ(上)、アカヒゲホソミドリカスミカメ(左下)、ホソハリカメムシ(右下)

○農薬はラベル等を確認し、適正に使用しましょう。

○今年も節水に御協力お願いします。

○熱中症等の農作業事故に注意しましょう。

○農業保険(収入保険、水稻共済等)に加入しましょう。



↑ 葉いもちの感染好適日の判定システム(BLASTAM)はこちら

「福島県」+「プラスタム」で検索!